

大阪のコロナ収束の力に

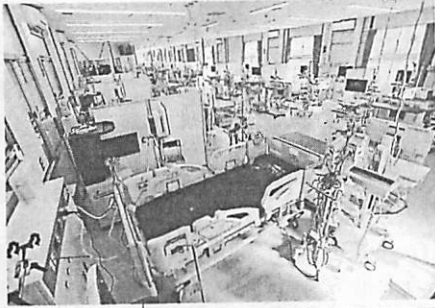
神戸の看護師、窮状知り志願

15日始動・重症センター

大阪府が15日から運用を始める新型コロナウイルスの重症患者用の臨時施設「大阪コロナ重症センター」で勤務予定の看護師石井綾香さん(28)＝神戸市＝と豊野千春さん(43)＝大阪市＝が11日、センター内で報道陣の取材に応じ、「一日も早く感染を収束できるような力になりたい」と決意を語った。(28面参照)



「大阪コロナ重症センター」で勤務予定の看護師石井綾香さん(右)と豊野千春さん＝11日午前、大阪市



最近まで岡山県内の病院の集中治療室(ICU)で勤務していた石井さんは、病床が逼迫する大阪の状況を

を知り、自ら問い合わせを応募。新しい施設で、これまでの職場とは設備や手順も違うため、手探りの日々になるが「コロナかどうかに関係なく患者の命を守るのが看護師としての務めだ」と話す。

「大阪コロナ重症センター」の内部＝大阪市(代表撮影)

す」と話す。

会員制交流サイト(SNS)などでは医療従事者や感染者への差別もあり、石井さんは「未知のウイルスに恐怖を抱く気持ちは分かるが、言われると傷つく。SNSは見ないようにしている」。

豊野さんは感染者の宿泊療養を受け入れる府内のホテルで11月まで勤務。9月に府看護協会から声が掛か

神戸新聞 12月12日分

素晴らしい勇気に賞賛されるでしょう。笑顔の裏に相当の決意と感じます。

いま、このような現場での職業を望んでいる人へ。毎日、どれくらいの回数、苦手な人から目を逸らしていますか？その人に踵をどれだけ返していますか？自分からどれだけ相手に対して自分の声の挨拶を届けていますか？本当に笑顔をどれだけ心がけていますか？

振り返って、それが本当に自分の目指す仕事なのか憧れからどれだけの本気かを自分に問うて下さい。そうすれば、本当の看護と向き合えるでしょう。

った。「貴重な体験。ここで働くことを誇りに思う。収束に向けて頑張る」と前を向く。

不要不急の外出自粛要請

が出てくることについて、石井さんは「長期間の自粛でしんどい思いをしている人もいると思うが、重症化するリスクは高齢者だけでなく若い人にもある」と注意喚起。豊野さんは「外出の必要があるときはマスクの着用など感染予防に努めてほしい」と話した。